

『歩く』 作：ポチ子

『歩く』 作：ポチ子

人生ってずっと歩いているみたい。

平日も休日も、

緩い上り坂を歩き続ける。

歩くのって疲れるし、

途中で休みたくなって、

しゃがもうかと思うけど、

それってもう二度と歩けなくなるのと同義だったりするから、

怖くて、足を止められない。

歩き続けたところで、

ただ坂が続いていくだけなのに、

それなのに、立ち止まることができない。

だんだん足が痛くなり始めて、

その苦痛から逃れたくて、

この坂には頂上があるんだ、

そこまでいけば休めるなんて幻想を抱いたりする。

そうやって現実逃避をしてまで、

私はこの坂を上りたいのか。

何もない道が続いていくだけなのに。